

築山の榎

つきやまのえのき



文化財愛護シンボルマーク

名称	築山の榎	管理者	国包伊勢講
別称	榎・棕の樹	指定	加古川市指定文化財
数量	1本(旧数量「3本」)	指定分類	天然記念物
法量	幹周6.94m	指定名称	築山の榎
樹種	榎 バラ目アサ科エノキ属 棕 バラ目アサ科ムクノキ属		(旧名称「エノ木・ムクノ木」)
時代	江戸時代、宝暦6(1756)年	指定年月日	平成2(1990)年10月11日
所在地	加古川町上荘町国包179	変更年月日	平成26(2014)年2月27日



築山の榎

くにかね
国包の集落は、もとは加古川右岸に位置していましたが、嘉禄元(1225)年の大洪水によって村全体が流されてしまってから、そのほとんどが左岸に移りました。しかし、加古川のほとりに位置するということに変わりなかったため、その後も洪水による被害がたびたび起こっていました。

ほうりやく
宝暦6(1756)年、大坂で商人をしていた国包出身の長濱屋新六郎は、このような郷里の状況を憂い、姫路藩へ願い出て、私財を投じて人々や家畜を避難させるための小高い丘を村の中央に築きました。この丘が「築山」で、その規模は長さ20間(約36m)、横11間(約20m)、高さ1丈(約3m)といわれており、周囲には石垣がめぐっていたようです。

えのき
築山の榎は、この丘の上に生えている巨樹です。かつては榎2本と棕1本が生えており、1本の棕が2本の榎に挟まれ、あたかも1本の巨大な樹のような状態で生えていました。

ところが、平成24(2012)年4月3日、猛烈な強風により、榎1本と棕1本が倒れるという大きな被害に見舞われました。残る1本の榎についても倒木の影響が心配されましたが、その後の地域の方々の保存対策によって樹勢はある程度回復しました。

そのため、平成26(2014)年2月27日に「エノ木・ムクノ木」(榎2本、棕1本)から「築山の榎」(榎1本)に指定名称と員数を変更することになりました。



倒木前の「榎・棕の木」 ※平成13(2001)年撮影

現在は榎1本が残っているのみですが、平成2(1990)年時点で、3本の樹を併せた幹周は6.94mを測り、樹齢は約230年と考えられていました。樹齢から考えると、これらの樹木は築山が築かれた時期とほぼ同じ時期に植えられたものとみられます。

このように、築山の榎は歴史的に由緒ある樹というだけでなく、国包の人々に大切に守り伝えられてきた地域のシンボルとしてかけがえのないものです。

(文、写真/平尾)

●参考文献

『播磨鑑』平野庸脩(1762年頃成立)

『増訂印南郡誌』兵庫県印南郡役所(1916年)

『角川日本地名大辞典』28兵庫県、「角川日本地名大辞典」編纂委員会(1988年)

●キーワード

築山の榎、築山、榎、棕、長濱屋新六郎

●所在地/加古川市上荘町国包179

●交通/JR加古川線「厄神」駅から北東へ1km